

小さい者の一人が減びることは天にいますあなたがたの父のみ心ではない。

つ の ぶ え



社会福祉法人

小羊学園

〒433-8105

静岡県浜松市北区三方原町 2709-12

電話：053-584-3337 FAX：053-585-8488

E-mail sasaeru@kohitsuji.or.jp

H.P http://www.kohitsuji.or.jp/

発行人：稲松 義人

印刷所：S R S株式会社

定 価：一部30円

2015年 7月 20日

第 386 号

人間の「弱さ」と向き合う

どうしたら「虐待」が防げるか②

理事長 稲松 義人

虐待の問題について、少し回数をかけて考えてみたいと思います。

小羊学園の施設も会員である静岡県知的障害者福祉協会の総会で、八谷重之会長は、挨拶の冒頭、山口県下関市で起きた虐待事件の報道に触れて「人間の本性について」「性善説」「性悪説」という表現を耳にすることがあるが、私は「性弱説」が一番人間の本性を現していると思う」というような趣旨の話をされました。この「性弱説」には私も全く同感です。

「虐待」にしても「いじめ」にしても「DV(家庭内暴力)」にしても実際の場面を見ると、何故こんなひどいことが起こるのだろうか疑問に思うような出来事です。力にまかせて他者の心もからだも傷つけるような行為は赦されることではありません。誰が悪いかと聞かれたら暴力に及んだ本人が悪いことは明白です。しかし、明らかに「悪い」と分かっているようなことを、何故してしまうのだろうかという深い疑問が生じてきます。昔、私が小羊学園で働きはじめた頃、集団生活をしている子どもたちの中にも力関係がありました。全体として障

がいの重い子どもたちでしたが、それでも能力は様々で、育ってきた経歴も様々でした。あるとき、寮内の騒ぎに駆けつけてみると、A君がB君に噛みつかれて腕にはつきりと歯型がつき紫色に内出血しており痛々しい姿でした。私はA君とB君を引き離し、興奮気味のB君を毅然と叱りつけ、A君を慰め医務室に連れていき処置をしました。しかし、しばらく時間が経過していくうちに、B君がA君に噛みつく前に、B君の頭を突然平手打ちしたC君の存在が見えてきました。さらにC君がそうするようにそののかすD君の存在も浮かびあがりました。D君自身にもその行動の何らかの原因があつたでしょう。当面のこととしてこの事故を整理すると、D君がC君を挑発し、挑発に乗ったC君がB君の頭を叩き、それに興奮したB君が、逃げ足の遅いA君に噛みついたということでした。この人間関係全体、いかえれば社会全体が見えていないと、最後に起こった行為だけを見てB君が悪い。社会の平和を乱す困った存在だということになってしまいます。上手に逃げられなかったA君は、確かに弱い存在だったでしょう。しかし、C君の標的になったB君はどうでしょう。C君がB君を叩いた行為は傷跡としては残っていません。D君はC君を挑発しましたが、直接手を挙げたわけはありません。C君もD君も結果的には、お咎めなしです。

挑発に乗ってしまうC君も、挑発することでは楽しみを見出せないD君もきつと弱さをもった人間なのだと思います。しかし、自らは「弱い」という自覚がなく、むしろ「強い」と思っており、強いことはよいことだと信じているとすればどうでしょうか。

自ら過ちを犯してしまい、それを反省し、自らの弱さと向き合うことができたとすれば、そこから何とか再起できるように支援してあげたいと思うのはおかしなことでしょうか。

自らは「強い」側において、弱さに負けた人たちの起こした悲しい事件とは、無関係だと思いついていませんか。案外多いのではないのでしょうか。あるいは、自分とは関わりのないことだと思つて、真実から目を背け、それで自分の心の中の平穏と保っているのではないのでしょうか。

私たちは、何らかの力を与えられれば与えられるほど、「力」こそが、ものごとを解決するために最も有効な手段だと思つて誘惑と闘わなければならないのだと思います。そして謙虚に自らを律していなければ、その誘惑に負けてしまう「弱い」人間であることを知らなければならぬと思います。

人は、権力、武力、経済力など、力の魅力に取り憑かれます。取り憑かれた人たちが目を覚ましてくれることを祈ります。お互いの「弱さ」に寄り添うところに真の平和があると思います。

利用者の高齢化・重度化を考える

障害者支援施設の入所利用者は年齢も高くなり、一昔前に比べると介護や医療の必要性が高くなったり、活動内容を変更したりしています。最近の課題と今後の在り方について、各施設の主任に報告してもらいました。

「三方原スクエア成人部の状況」

三方原スクエア E棟主任

石川 綾子

E棟の利用者像

三方原スクエア成人部は年齢・障がい共に様々な方達が生活しています。少人数で生活ができるユニットケアという環境の中で、障がいの重い方でも生活しやすいようにバリアフリー等の構造的な配慮もされています。その中でもE棟は「重度の方や車椅子にも対応できるユニット」とした支援体制を整えています。バリアフリーの建物で生活し易くなつた一方で、意識して体を動かす機会が減った事も要因なのか、徐々に機能が低下する利用者が見られ始めました。スクエア移転改築前は座位での移動を含め何らかの移動手段が可能だったのが、現在は寝たきりの方2名、歩行時に付き添い支援の必要な方が4名います。食事に関しても移転前には刻み食の方は1名でしたが、現在は嚥下食の方が3名、その内1名は胃瘻での栄養注入をしています。その他の方も刻み食や軟菜食、水分のトロミ対応など、殆どの利用

者が何らかの配慮を必要としています。また空気嚥下症・歩行機能の低下等看護師やつばさ静岡の訓練士(P.T.O.T)による指示を受けた上で支援方法を決めていく必要のある方も増えています。

日々の生活

このような身体機能の低下と共に支援度も高くなっています。三方原スクエアはユニット支援のため、他棟は職員一人体制に対し、E棟は常時複数職員の配置をしています。同時に平均年齢48・5歳と高齢に伴う体力低下が見られ始めている状況から、食後や活動後などに静養ができるように2つのユニット間に専用リビングを増床しました。入浴に関しても支援度が高い方や体力低下の方は隔日入浴で日中活動の時間に安全に入れるよう支援しています。リフト浴の方も2名おり、現在は支えがあれば座位が保てていますが、座位が保てなくなるトリフト浴では困難になる事が予測され、機械浴の設備が必要になります。現在普通浴をしている方でも湯船への出入りが困難になりつつある方もお

り、他棟も含めて浴室の整備は急務の課題です。

日中活動

E棟は健康面をベースとして活動を行えるように、生活と活動を同じ職員が支援しています。活動時間は午前午後1時間ずつと短いですが、メリハリをつけられるように活動室へ移動して

今後について

今まで述べたように全体的に高齢化・機能低下が進んでいます。中でも胃瘻の方、1日2回の吸引が必要な方、急変するリスクの高い方がおられます。今後更に機能低下が進行し24時間体制の医療が必要になると三方原スクエアでは対応が困難となるため、本人が安全に安心して生活できるために必要な体制や設備が整っている施設を探していくことも検討されています。

スクエア全体として

E棟以外の成人部の利用者でも同じように身体機能の低下が見られる方が多くいます。現在では寝たきりの方の介護技術(オムツ交換や体位交換の仕方



「今、そしてこれから」

支援センターわかぎ 統括主任

金森 勇人

新しい支援センターわかぎ

支援センターわかぎは平成26年4月に改築され新しい生活がスタートしバリアフリーに生まれ変わりました。入所利用定員40名 短期入所8床の一日最大で48名の利用者への支援を行っています。利用者の暮らしは、全個室、4つのユニットに別れての生活になっており、余暇時間には、個室で過ごす方、居間で過ごす方と皆様、思い思いに過ごされています。

現在、利用者の平均年齢は55歳ですが、重度障がい者は身体機能面では実年齢より10歳・15歳落ちているとも言われています。今まで大切にしてきた、利用者の充実に繋がる日中活動時間の保障、一日の終わりと共に疲れを癒す夜間入浴の支援等、活動や生活の中でも青年期とは違ったさまざまな変化が始めてきています。

楽しい食事とは

食事は単にエネルギー補給だけでなく、暮らしの中で最も楽しみな時間の一つです。利用者の中には嚥下能力が低下し、むせこむせが多くなった方もいます。また、咀嚼力が弱まり食事形態を一口サイズや刻み食などに変えた方もいます。

楽しい食事が機能低下とともに危険なものへと変化しました。安心して食べる事ができてこそ楽しい食事です。利用者の楽しい食事になるように、現在わかぎでは、「軟菜食」「嚥下食」と利用者の嚥下能力の状態を見極め、提供しています。また、次年度を目標に真空調理の導入を予定しています。看護師、栄養士、調理師、支援員と様々な分野からの視点を踏まえ、利用者の支援に反映させていく必要性を多いに感じます。

安心できる入浴

日々の暮らしの中でもう一つの楽しみは入浴です。改築の段階で入浴設備は、一般浴槽に加え現在の利用者の将来像や、地域の社会資源として特殊浴槽(機械浴)を設置しました。特殊浴槽で入浴することによって、歩行が不安定になってきている利用者には安心する入浴時間の提供と繋がっています。また、オリープの樹利用者も週に1回、特殊浴槽を利用し、「気持ちよかった」と笑顔で帰られていきます。現在は、特殊浴槽を1台で稼働していますが、今後の利用者の将来像を考えると今以上に特殊浴槽の必要性を感じます。一方で、以前から大切にしてきた「夜間入浴」や「日中活動時間の保障」から新たに現在の利用者の状態を踏まえた上での「大切にしたい提供とは何か？」を考えなければならぬ一つの節目が近づいているように感じます。

魅力あふれる日中活動

現在の日中活動は生活されている居住ゾーンから活動ゾーンへと移動し、工房班(木工作業)、A班(さをり)、G班(創作)、ハウス班(洗濯たため)R班(缶つぶし)、C班(機能訓練、リラクゼーション)、E班(畑)と各班での活動を行っています。以前の日中活動では、工房班をメインに「仕事」という捉え方で活動し、売り上げたお金を利用者の旅行費用に還元する事が、意欲に繋がりが、充実にもつながっていました。しかし、利用者にも変化が起き、現在は利用者の年齢や体力を考慮し、ご本人の意欲や充実に繋がる活動提供へと変わりつつあります。A班の利用者の平均年齢は66歳であり、わかぎの中で最も年齢層が高い班となっております。活動で地域に出ることにもうまくいかない事も多くなりました。

しかし、利用者は地域の方との交流を楽しみにしており、支援員としても交流の機会を大事にしたいと考えています。地域に出かける事にも難しさがでてくる今だからこそ、地域の方が施設に訪れる事の大事さを感じます。支援センターわかぎで行っているお祭り行事、利用者の日々の活動の様子が見られるワークショップ等を媒体として利用者が地域の

方とのふれあえる時間になることと願っています。

「利用者の生活を支えるために」

これまで記述してきた「食事」「入浴」「活動」は利用者の中の一部分であり、他にも利用者の状態の変化は今後出てくる事が予測されます。私たち支援員に必要なことは、現在の支援提供が利用者のライフステージに合った支援提供になっているのかを問い続けることではないでしょうか。

また、今後も高齢化、重度化になっていく利用者の支援や課題に対して、迅速、柔軟な対応ができるように、個々の支援員の知識を広げる事が今、求められています。機能低下は支援員が予測している事よりも進行は早く、深刻なことです。今、利用されている方の「将来はどのようなのか」をイメージし、今後に繋がる支援を見出し、いけたらと思います。



特集
創立50周年にむけて ①

小羊学園は2016年に創立50周年を迎えます。創立者である山浦先生が召天され20年が経ち、生前の山浦先生を知らない世代の人たちが多くなりました。私たちは創立者の思いを理解し、目の前におられる支援の必要な人々と向き合っていかなければいけません。これから、つづいて定期的に山浦先生について紹介していきます。

初回は、遠州教会前牧師の小林眞先生が週報に綴った文章を紹介します。

「山浦俊治氏の死」

小林 眞

一九九四年十二月二〇日夕。
千原先生(ホスピス所長)が「クリスマス礼拝には出席できるようにしましょう」とおっしゃった。この言葉に愕然とし、「そこまで…」という思いしかなかった。

二五日のクリスマス礼拝。私が礼拝堂に入ると、氏は既に最前列に座っておられた。隣に座ると「記念ですから配餐させて下さい」とおっしゃり、私も「お願い致します」と答えた。

礼拝が始まり、讃詠に入ると、氏も歌詞が言葉にならず、その様子で私も歌えない。

その讃詠の途中、私は讃美歌を持ち直すふりをして、右肘をあげて氏の左腕

にあてた。氏もわかって下さったようので、かすかに左を向かれた。説教ができるかな、と自分で心配したが、幸いに無事に終え、洗礼式、聖餐式に入った。

氏が私の視野に入ると「クリスマス礼拝には…」という千原先生の言葉が思い出され、時に涙で中断した。それ故、お気づきの方もおられるかもしれないが、式文を読む時は、氏が見えないように右の方向を向いて司式した。

氏も一人一人の顔を記憶に残そうとされたのだろうか。会員の顔を見つめつつ配餐された。礼拝後の「信仰告白」も本心に尊く聞かせて戴いた。

氏の死は、教会員のすべてにとつて衝撃であり本心に残念であった。が、悲しんでばかりもいられない。

氏は何を残してくれたのだろうか。一番は「礼拝への姿勢」であろう。氏の礼拝での席も全くの指定席。更に、最前列に座ることに増してのことは、礼拝を守ることに。

五年位前の「東海教区通信」の中に、「午前中、千葉や岡山くらいでの講演会や結婚式の出席ならば、夕拝に十分帰って来れる」と書いておられた。又、事実そのように礼拝を守ってこられた。

礼拝を守る姿勢と、葬儀説教で語ったように「委ねる」ことを根本にされた氏。その後に続きたいものであり、最後の十二月二五日礼拝とは、四七年前の氏の受洗の記念日でもあった。

明子夫人に支えと慰めがありますように。

◆一九九五年一月八日 遠州教会週報

小羊学園を支えるボランティア

浜松ロータリークラブ様

浜松ロータリークラブ様は今年で創立80周年を迎えられる社会貢献団体。会員は企業・金融機関や公共機関等で役職に就かれておられる方々で構成され、婦人部の皆様が小羊学園の開設当初から毎月2回の奉仕活動に来られ、現在は23名の方が交代で奉仕くださっています。小羊学園以外にも、児童施設奉仕・富士山クリーン奉仕・災害支援・交換留学生支援等多岐にわたる活動を展開されています。開設当初から現在まで49年にわたるご奉仕、感謝申し上げます。益々のご発展を祈念申し上げます。



小羊学園を支える会

2015年度 寄付金報告

5月 受付分 233,600円 (16件)
累計 3,631,430円 (48件)

小羊学園への寄付金振込み先

郵便振替口座 00800-8-107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園
ゆうちょ銀行 089店 当座預金0107785
口座名義 社会福祉法人小羊学園

ご希望があれば、郵便振替用紙をお送りいたします。下記へご連絡ください。

小羊学園を支える会事務局(鈴木)
小羊学園法人本部 ☎053-584-3337

編集後記

今年はまだに梅雨らしい長雨続き。野菜の市場価格も高値で家計にも影響が出始めている。早くカラッとした晴天を仰ぎたいと思う日々。ちなみに、日照時間の全国ランキング、都道府県別で静岡県は第2位。観測地点別で浜松市は平成23年調査で全国1位になったこともある。温暖で天気の良い日が多い、この地で暮らせるありがたみをもっと感じなければ…。人の気持ちも時には曇りがち。でも晴れ渡る晴天が必ず待っている、と自分に言い聞かせる。皆さんもまた然りなのは。

本格的な夏到来です。皆様どうぞお身体ご自愛ください。